

いえしまDays

7月29日(月) ~ 8月1日(木)

IN 兵庫県立いえしま自然体験センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	オリエンテーション <島での過ごし方>	振り返り
2日目	オリエンテーション <魚の獲り方について>	自給自足生活	振り返り
3日目	自給自足生活	自給自足生活 浜辺レース	振り返り
4日目	清掃	施設を出发・解散	

一日目： 朝早くから各集合場所より出発しました。初めは緊張や不安から笑顔が少ない方もおられましたが、姫路港からフェリーに乗る頃には皆表情が和らいでいました。島の港から少し歩くと施設が見え、その奥に雄大な海が広がっていたので、「キレイ！」と歓声を聞くことが出来ました。昼食を済ませると、初日は島暮らしに必要な情報や技術を学び、様々な準備を要します。【亀の手】と呼ばれる貝を捕りに磯浜へ向かいました。すると珍しい生き物が沢山おり、「食べられるかな？」と口を揃えて質問されていました。夕飯から野外炊飯が始まります。これから何度も経験するので、やり方やコツ、注意する点などを確認しながら行いました。今晚は『カレー』です。そして磯浜から捕ってきた貝や海草を入れた味噌汁を作りました。協力して食材を切り、火をおこし、思ったより早く完成する事が出来ました。美味しい事と上手く完成させられた事との嬉しさで何度もおかわりをさせていました。きれいに完食した後は片付けと入浴を済ませ、一日の振り返りを行いました。グループ内での頑張りグラフ化させ、それを基に翌日の動きをグループで決めていただきました。二日目から本格的に島暮らしが始まります。沢山悩み、話し合い、楽しく過ごしていただきたいです。

二日目： 今日から本格的な島暮らしがスタートです。【時間】という考えがなくなるので、起床からグループによってばらつきが出てきます。昨夜は遅くまでしっかりと話し合いをされていたので、今朝は少し遅めに起床されてきました。朝食後、自分達で考えたスケジュールを始めました。釣りをを行うグループや、海遊びに出掛けるグループ、部屋の中でゆっくりと過ごされるグループもありました。お昼になると早速島暮らしの壁に直面しました。昼食の時間が分からず、食べる時間が大変遅くなってしまいました。その遅さについてグループで話し合いをされ、夕食は皆が一丸となり、手早く済ませる事が出来ました。今回の経験をしっかりと振り返り、明日のスケジュールに活かせるように話し合い、昨夜に比べ、早めに就寝しました。



三日目： 疲れが見えてきたのか、朝は比較的ゆっくりと起床されました。朝食を済ませると、元気に海に遊びに行くグループと部屋でゆっくりするグループに分かれました。三日目は一切時間が分からないので、各グループの感覚が顕著に現れました。それでも全体的にペースは遅く、急ごうとする意思はありませんでした。全体に向けて話をした後、グループで話し合いをされ、そこから意識が変わり、動きに変化が生まれました。昼過ぎからは、【お肉食材】をかけてレクリエーションで盛り上がりました。今回のキャンプは走り回る事がなかったので、ここぞと言わんばかりに存分に走り回り、笑顔いっぱいでした。夕飯は獲得したお肉を使って、どのグループも豪華なメニューでした。明日が最終日です。きちんと片付けを終わらせて、島を出発します。

四日目： これまでの朝に比べて起床時より忙しく、シーツをたたみ、荷物を整理して部屋を空っぽにしました。朝食は昼食に備えて少なめでしたが、それでも皆お腹いっぱいの様子でした。朝食後は使用した器材の片付けやかまど掃除、荷物の最終確認をしました。片付けをしているうちにお昼になり、初めて食堂を利用しました。作っていただいたご飯に「美味しい！！」とどこからも聞こえ、皆満面の笑みで食べておられました。昼食後は島を出発です。再び重たい荷物を持って峠を越えるのですが、初日とは違い、元気に歩いておられました。ここに大きな成長を感じました。乗船し、席に座るとホッとされたのか、ぐっすり休まれている方も多数おられました。明石駅に戻り全体解散をすると、どこか別れを寂しがる様子を伺えました。本当に3泊4日の島暮らし、お疲れさまでした。



<キャンプ総括>

毎年行っているキャンプですが、皆「自由」という言葉に惹かれて参加されています。しかし、そのほとんどが自由の表面的な意味に向けられた気持ちが強いので、そのギャップに衝撃を受けられます。自由という言葉の裏には【責任】があります。この“いえしまDays”は二日目から何をすることも自由ですが、全てに責任が付いてきます。食事が遅くなるのも自由ですが、その後に行うことが遅れる責任を取らなければいけません。参加者はまだまだ守られ、責任を感じにくい環境下におられます。だからこそ、こうして、【自由＝責任】を学び、普段の生活に少しでも責任のある行動を取っていただきたいです。来年も同じ時期に開催しますので、是非ともご参加ください。（竹中 哲郎）